

Opening

失礼します。

お忙しいところ、お越し^こ頂^{いただ}きありがとうございます。

Julianeと申します。よろしくお願いします。

Topic sentence

私は漫画家と家族生活について調^{しら}べましたので、今から発表させていただきます。まずはじめに、

発表の内容について簡^{かん}単^{たん}にご説^せ明^{めい}いたします。

内容

選んだ理由

私がこのテーマの選んだ理由の一つは、「バクマン」というアニメを見たからです。このアニメは漫画家の家族生活を^{えが}描^{えが}きます。

さらに、テズカオサムの^{じでん}自^は伝^{っけん}を^{かい}発^い見^{けん}しました。自伝は^{ひじょう}非^き常^{ょう}に^{きょう}興^み味^{ぶか}深^{ふか}く、私はそれのいくつかを読みたくなりました。

この春、私はオースで日本の^{かいぎ}会^{かい}議^ぎに行^いってき^きました。そこで、ある発表者が私が興味を持っていたアニメーターについてプレゼンテーションを^{かいさい}開^{かい}催^{さい}しました。だから、私は漫画家についてもっと知りたいと思いました。

目的

まずはこのプレゼンテーションで、「漫画家」の^{ていぎ}定^{てい}義^ぎと漫画家のライフスタイルと仕事を^と説^せき^あ明^{めい}かします。私はフリーターと人気漫画家を^{くら}比^{くら}べてみます。

その後、漫画家の家族生活を^{ぶんせき}分^{ぶん}析^{せき}します。

最後は漫画家の^{じっさい}実^{じっ}際^{さい}と「バクマン」というアニメを^{ひかく}比^ひ較^{かく}します。

本文

- 「漫画家」の定義^{ていぎ}

日本における「漫画家」は、漫画作品^{さくひん}を作るうえで作画の主体者^{さくが しゅたいしゃ}を指します。

脚本^{きゃくほん}のみを担当^{たんとう}し作画^{さくが}を行^{おこな}わない者は「漫画原作者^{もの まんがげんさくしゃ}」、作画^{さくが}におい

て補助的^{ほじょてき}な役割^{やくわり}を担^{にな}う者は「アシスタント」と呼ばれ、作画^{さくが}の主体者^{しゅたいしゃ}で

ある「漫画家」とは明確^{めいかく}に区別^{くべつ}されます。作画^{さくが}の主体者^{しゅたいしゃ}であれば、脚本^{きゃくほん}

と作画^{さくが}の両方^{りょうほう}を担当^{たんとう}する者^{もの}も作画^{さくが}のみを担当^{たんとう}する者^{もの}も「漫画家」があり

ます。ただしアマチュアが増加^{ぞうか}していることを考慮^{こうりょ}すると、漫画^{まんが}の作家全般^{さっかぜんぱん}と
捉^{とら}えることもできます。

会社^{かいしゃ}や団体組織^{だんたいそしき}に正社員^{せいしゃいん}や職員^{しょくいん}として所属^{しよぞく}せず、時給^{じきゅう}や日給^{につきゅう}

による給与^{きゅうよ}を主な収入源^{おも しゅうにゅうげん}として生活^{こうじょうてき}する人のことです。恒常的^{こうじょうてき}なア

ルバイトを主な収入源^{おも しゅうにゅうげん}とする人^{ひと}とはほぼ同義^{どうぎ}です。彼らは漫画での

収入^{しゅうにゅう}によって自分を支^{ささ}えることが出来ない^{しぼうしゃ}ので、漫画家志望者^{しぼうしゃ}はフリーター
です。

- 漫画家のライフスタイルと仕事

漫画家の仕事^{しごとちゅう}中^{ちゅう}のイメージとは、原稿用紙^{げんこうようし}に向か^むってペンでガリガリと絵^えを描^か

いているシーンだと思いますが、それは漫画家の仕事^{ぜんたい}全体^{なか}の中^{なか}でも

さいしゅうだんかい
最終段階^{さいしゅうだんかい}です。

え か 絵を描くだけが漫画家の仕事ではなく、キャラクターを作り、^{せかいかん こうちく}世界観を構築し、
^{ものがたり う だ}物語を生み出すのが漫画家の仕事です。

その^{さぎょう}作業は「プロット」⇒「ネーム」⇒「^{したか}下描き」⇒「^いペン入れ」⇒「^{しあ}仕上げ」と
いう^{こうてい かんせい いた}工程で完成に至ります。

この^{さぎょう}作業を進めるときに、^{へんしゅうぶ たんとうへんしゅうしゃ う あ く}編集部を担当編集者と打ち合わせを繰り返し、
^{かえ おこな さくひん か だんかい}返し行い、作品を描きあげる段階では、アシスタントの^{きょうりよく え}協力を得て
^{かんせい}完成させます。

VIS GRAF。このグラフはしいばしひろしという漫画家の仕事の予定です。しいばしは
新しい漫画の^{しょう どうようび かいし}章を土曜日に開始します。まずは^{へんしゅうしゃ う あ}編集者との打ち合わせです。
ここでネームの^{けいかく た}計画を立てます。火曜日の朝までネームの仕事が^{つづ}続きます。次は
また^{へんしゅうしゃ う あ}編集者との打ち合わせです。火曜日の^{かようび ひる}昼の後に、カラーイラストを描き、
^{すいようび}水曜日にはアシスタントが来ます。土曜日の朝で、しいばしは^{しょう つく お}章を作り終わります。
まず、^{いちしゅうかん とお}一週間を通してしいばしは^{すいみんぶそく くる}睡眠不足に^{げつようび}苦しみます。月曜日にた
った2時間だけ寝る時間があります。しかも、^{よか かぎ}余暇が限られています。^{じっさい}実際に、
^{いちしゅうかん じかん きゅうそく}一週間に3時間だけ^た休息できます。家族を持つには時間が足りなかったと
のことです。

● 漫画家と家族

^{ぜんじゅつ}前述のように、テズカオサムは^{じでん}自伝を書きました。本の中で、^{おやこ かんけい}親子の關係が
の述べられています。テズカはお母さんが好きで、お父さんが^{いちど}一度もいったと思いまし
た。子供のときお母さんは^{ゆめ じつげん}夢を^{げきれい}実現させようとテズカを^{げきれい}激励するため、スケッ

チブックを^か買^{あた}い与^えました。

お母さんはお見^て合^{はい}いも手配^てしました。そのお見^て合^{はい}いのおかげで、テズカは結婚^{けっ}しまし
た。しかし、忙^{いそ}し^がず^いて奥^{おく}さんとは話^わして^はい^られ^ませ^んで^した。彼^{かれ}があ^そこ^まで^し事^じ
を^しな^けれ^ばも^っと奥^{おく}さん^と話^わして^いら^れる^時間^があ^りま^した。関^{かん}係^{けい}に^えい^きょう^{よう}
しま^した。その上^{じょう}、親^{おや}は^お老^いいた^時、テズカの家^{いえ}に^いん^こ引^ひつ^こ越^えして^きま^した。お礼^{れい}のこ
と^とで^した。もち^もろ^ろん、テズカの^し事^じに^とも^ない、奥^{おく}さん^が親^{おや}面^{めん}倒^{どう}を^み見^えざる^を得^えな
か^った。全^{ぜん}体^{たい}と^して、彼^{かれ}は^か家^け族^{ぞく}を^{しあ}幸^せに^する^ため^に一^{いっ}生^{しょう}懸^{けん}命^{めい}働^{はたら}いた^のに、
家^ふ族^あと^じ触^{かん}れ^あう^じ時^{かん}間^がな^かっ^た。

ざんねん
残^{ざん}念^{ねん}な^がら、彼^{かれ}は^{いそ}働^がき^ずぎ^て、結^け局^{っきょく}は^び病^び気^{ょうき}に^なっ^てし^まっ^た。

結果

漫^{まん}画^が家^かに^は多^{おほ}く^の余^{あま}暇^{ひま}が^ない^と結^け論^{ろん}す^るこ^とが^でき^ます。家^か族^{ぞく}を^もつ^た彼^{かれ}ら^の
可^か能^{のう}性^{せい}に^えい^きょう^{よう}お^およ^よれ^んあ^いか^んけ^いい^かか^か
を^を及^{およ}ぼ^して、恋^{れん}愛^{あい}関^{かん}係^{けい}に^か係^かわ^りそ^うで^あり^ませ^ん。

討議

- 「バクマン」のあらすじ

バクマンは二^ふ人^{たり}の^{しゅ}主^{じん}人^{こう}に^つい^ての^はな^はです。中^{ちゅう}学^{がく}3^{さん}年^{ねん}生^{せい}の^ま真^ま城^{じょう}最^{さい}高^{こう}は、高^{たか}い

が^ちか^ら画^が力^{りき}が^あり^なが^らも^も将^{しょう}来^{らい}に^ゆめ^もを^もた^ず、た^だ流^{なが}さ^れて^ふつ^うに^い生^いきて^いく

だ^けの^{たい}退^{たい}屈^{くつ}な^ひ日^び々^を送^{おく}っ^てい^まし^た。そ^んな^ま真^ま城^{じょう}の^お叔^じ父^ふは^かつ^て

しゅうかんしょうねん
週^{しゅう}刊^{かん}少^{しょう}年^{ねん}ジャンプに^{れん}連^{さい}載^{さい}し、そ^の作^{さく}品^{ひん}が^かア^ニメ^化も^され^た漫^{まん}画^が家^か・川

口^{くち}た^らう^うで^あつ^たが、^{れん}連^{さい}載^{さい}打^{うち}切^{きり}と^なり^その^{のち}の^{のち}過^か労^{ろう}に^より^し亡^{ぼう}く^なつ^た過^か去^こ
が^あり^まし^た。

ある^{ある}日^ひ、些^さ細^{さい}な^で出^{でき}来^{ごと}事^{こと}を^きっ^かけ^に、ク^くラ^らス^さメ^めイ^いト^とで^{げん}原^{げん}作^{さく}者^{しゃ}志^し望^{ぼう}の^た高^{たか}木^き秋^{あき}人^{ひと}
に、「俺^{おれ}と^く組^くん^で漫^{まん}画^が家^かに^なら^ない^か」と^さ誘^そわ^れま^す。は^じめ^は一^{いっ}緒^{しょ}に^か漫^{まん}画^がを^か描^えく

ことを拒絶^{きよぜつ}していたが、声優^{せいゆう}を目指^{めざ}している片思^{かたおも}いのクラスメイト・亜豆美保と、「アニメ化^かしたら結婚^{よくそく}します」と約束^{やくそく}したことから漫画家への道^{みち}を志^{こころざ}すことになります。高木もクラスメイトと恋^{こい}に落ちます。あの女の子の名前はミヨシカヤです。

真城は祖父^{そふ}から叔父^{おじ}が使^{つか}っていた仕事場^{しごとば}を譲^{ゆず}り受け、高木とともにそこに籠^{かご}って処女作^{しよじょさく}の執筆^{しつぴつ}に専念^{せんねん}します。そんな中^{なか}で手塚賞^{てづかしやう}に準入^{じゅんにゅうせん}選^{せん}した新妻エイジが同年代^{どうねんだい}であることを知りライバル視^しします。やがてににんさんきやく^{くろう}で苦勞しながらも完成^{かんせい}した作品^{さくひん}を、ジャンプ編集部^{へんしゅうぶ}にも込^こんだ二人は敏腕^{ふたり}の編集者^{びんわん}・ハットリアキラと出会い、漫画家としての資質^{ししつ}を認^{みと}められます。

つまり、漫画家になる二つの道^{はじ}の始^{はじ}まりです。

● 漫画家^{じっさい}の実際^{じっさい}と「バクマン」というアニメ^{ひかく}の比較

この討議^{とうぎ}で大きい問題^{いか}は以下^{とお}の通り^{げんじつ}です：バクマンは、現実^{げんじつ}に相当^{そうとう}しますか。答えは、ある部分^{ぶぶん}は現実^{げんじつ}に相当^{そうとう}するとも言えますが、そうではない部分もあります。

バクマンには真城^{しめ}の家族^{しめ}だけで示^{しめ}されます、そして、彼らは真城^{ささ}を支^{ささ}えるようです。これは、テズカ^{じでん}の自伝^{じでん}でも、見られました。

対照^{たいしょうてき}的に、恋愛^{れんあい}関係^{かんけい}に関して、バクマンは非現実^{ひげんじつてき}的^{てき}です。真城、高木とライバル^{にん}の2人^{かんけい}には関係^{かんけい}があつて、全員^{ぜんいん}は結婚^{けっこん}して終わります。マシロとアズキ^{かんけい}の関係^{かんけい}は西洋人^{せいようじん}にとっては珍^{めづら}しいかもしれません。しかし、それは日本^{きみょう}では奇妙^{きみょう}なことではありません。

高木とミヨシの^{かんけい}関係は真城とアズキよりもはるかに^{はや}早く^{しんてん}進展します。いくつかの^{しつと}嫉妬の問題のため、高木はミヨシに^{ていあん}提案し、彼らは結婚します。手塚の妻のように、ミヨシは、働く^{だれ}誰かと結婚することがいかに^{こんなん}困難なことかを^{けいけん}経験します。

^{けつろん}結論として、バクマンは、いくつかの^{しゅうせい}修正を^{くわ}加えた^{げんじつ}現実を^{しめ}示しているアニメです。

Ending

^{せいちょう}ご清聴ありがとうございました。

References